

# 3

## システム機能の説明

本章では、システム(Windows 98 / 95 / NT)の機能や  
東芝が提供する機能について説明しています。

- 1** 日本語入力システム MS-IME について ..... 76
- 2** インジケータ領域について ..... 78
- 3** ディスプレイ解像度の変更 ..... 79
- 4** ドライバのインストールについて ..... 82

# 1 日本語入力システム MS-IME について

## 1 MS-IME ツールバーの表示

本製品には Microsoft 社製の日本語入力システム MS-IME が標準装備されています。MS-IME のバージョンはお使いになるシステムによって異なります。

Windows 98 ご使用時 : MS-IME98

Windows 95 / NT ご使用時 : MS-IME97

1 タスクバーの日本語入力インジケータ (MS-IME 日本語入力システムアイコン) をクリックする  
メニューが表示されます。

メニューが表示されます。

2 [ツールバーを表示] をポイントしてクリックする

MS-IME のツールバーが表示されます。

MS-IME98 ツールバー



MS-IME97 ツールバー



なお、上記メニューの [ツールバーを表示] をもう 1 度クリックすると、MS-IME のツールバーは画面から消えます。

## 2 入力文字種を選択

入力する文字種を選択は、以下のように行います。まず、MS-IME のツールバーの左端のボタンをクリックすると文字の種類を選択するメニューが表示されます。ここでは、[ひらがな] または [全角ひらがな] をポイントしてクリックします。ツールバー左端のボタンは、[あ] に変わり、全角ひらがな入力が可能になります。

MS-IME98 の場合



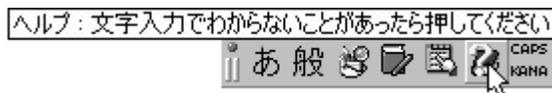
MS-IME97 の場合



### 3 MS-IME ツールバーの使用方法

MS-IME の詳しい使用方法は、次の MS-IME ツールバーのヘルプをご覧ください。

MS-IME98

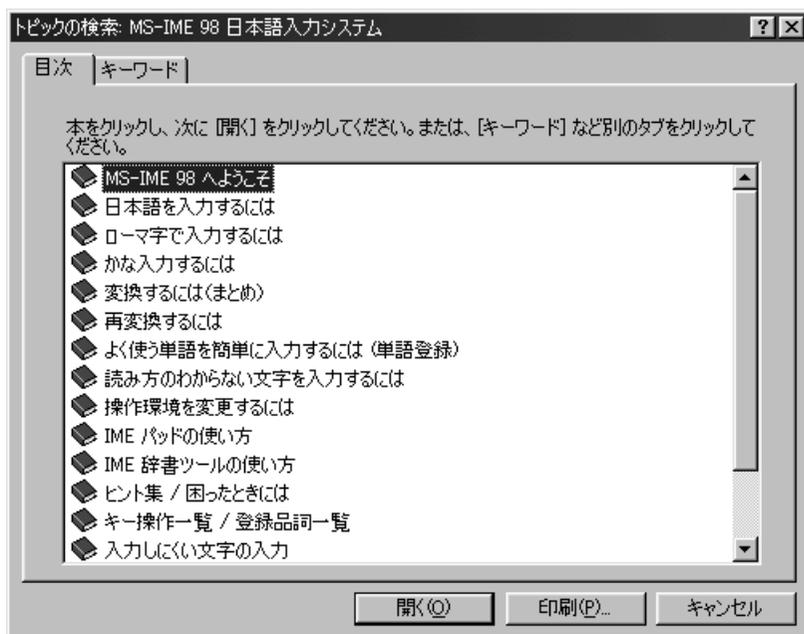


MS-IME97



MS-IME98 を使用のときは、ヘルプをクリックして表示されたメニューから [ 目次とキーワード ] をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。MS-IME97 をご使用のときは、ヘルプをクリックするとヘルプ画面が表示されます。知りたい項目をクリックしてお読みください。

画面は MS-IME98 を例にしています。



## ② インジケータ領域について

ここでは、タスクバーインジケータ領域と日付と時刻の設定について簡単に説明します。

### ① 日本語入力インジケータ

日本語入力インジケータ  をクリックすると、MS-IME ツールバーの表示 / 非表示、日本語入力オン / オフの切り替えを行うことができます。

☞ 使用方法について

⇒ 「本章 1 日本語入力システム MS-IME について」

### ② SB Audio PCI 128 ミキサー

SB Audio PCI 128 ミキサー  をクリックすると、本装置に接続されたスピーカの音量を設定することができます。なお、ダブルクリックすると [ SB Audio PCI 128 ミキサー ] の画面が表示されて、より詳細な設定ができます。

### ③ 日付と時刻の設定

タスクバー右端の時刻の部分ダブルクリックすると、日付と時刻の設定を行うことができます。

### ④ 画面インジケータ (Windows 98 / 95 モデル)

画面インジケータ  をクリックすると、ディスプレイの解像度を変更することができます。画面インジケータは、Windows NT モデルでは、表示されません。なお、ダブルクリックすると「画面のプロパティ」の画面が表示されて、より詳細な設定を行うことができます。

☞ 「画面のプロパティ」でディスプレイ解像度を変更する

⇒ 「本章 3 ディスプレイ解像度の変更」

# 3 ディスプレイ解像度の変更

ここでは、ディスプレイ解像度や表示できる色数を変更する方法を説明します。

## Windows 98 / 95 の場合

画面の表示例は、Windows 98 の画面です。Windows 95 の場合は異なります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[設定(S)]をポイントし、[コントロールパネル(C)]をクリックする  
次のコントロールパネルの設定画面が表示されます。
- 2 [画面]アイコンをダブルクリックする  
画面のプロパティが表示されます。



・インジケータ領域の画面インジケータ  をダブルクリックしても、同様の画面が表示されます。



(注)画面は一例です。

- 3 [設定](Windows 95 の場合は [ディスプレイの詳細]) タブをクリックする  
[色](Windows 95 の場合は [カラーパレット(C)]) [画面の領域](Windows 95 の場合は [デスクトップ領域]) の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。



(注)画面は一例です。

- 4** 設定が終了したら、[ OK ] ボタンをクリックする  
以降、表示されるメッセージに従って設定を変更してください。

## ● Windows NT の場合

- 1** [ スタート ] ボタンをクリックして、[ 設定(S) ] をポイントし、[ コントロールパネル ] をクリックする  
次のコントロールパネルの設定画面が表示されます。
- 2** [ 画面 ] アイコンをダブルクリックする  
画面のプロパティが表示されます。



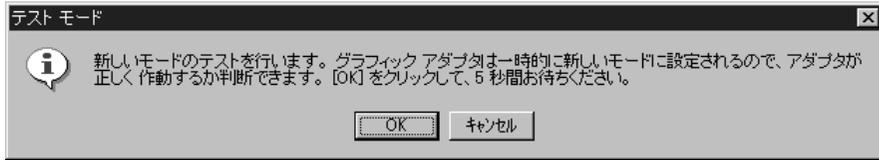
(注)画面は一例です。

- 3** [ ディスプレイの設定 ] をクリックする  
「ディスプレイの設定」タブの [ カラーパレット(C) ] または [ デスクトップ領域(D) ] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。

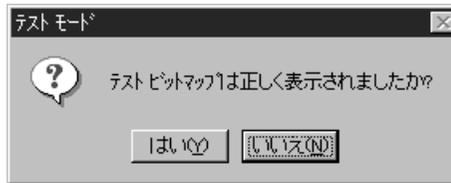


(注)画面は一例です。

- 4** 設定が終了したら、[ テスト(E) ] ボタンをクリックする  
次の画面が表示されます。



- 5** [ OK ] ボタンをクリックする  
テスト画面が表示され、テスト後、次の画面が表示されます。



- 6** 正しく表示された場合は [ はい(Y) ] をクリックする  
表示に問題があった場合は、[ いいえ(N) ] をクリックし、正しく設定し直してください。

- 7** テストが正しく終了したら、[ OK ] ボタンをクリックする  
設定を保存して、[ 画面のプロパティ ] 画面を閉じます。



メモ

・ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更の際は接続しているディスプレイに合った設定にしてください。

☞ 詳細について ⇨ 『お使いのディスプレイに付属の説明書』

# 4 ドライバのインストールについて

ドライバのインストールについては、各ドライバの説明書に従ってインストールしてください。

## Windows 98 / 95 の場合

画面の表示例は、Windows 98 の画面です。Windows 95 の場合は異なります。フロッピーディスクからドライバのインストールを行なっている場合、[ ディスクの挿入 ] ダイアログボックスが表示される場合があります。



(注) 画面は Windows 98 の場合です。

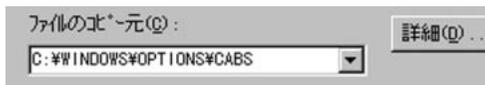
このような場合は、次の手順でインストールを継続してください。

- 1 [ ディスクの挿入 ] ダイアログボックスの [ OK ] ボタンをクリックする  
[ ファイルのコピー ] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 ファイルのコピー元を入力する

[ ファイルのコピー元(C): ] に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力します。



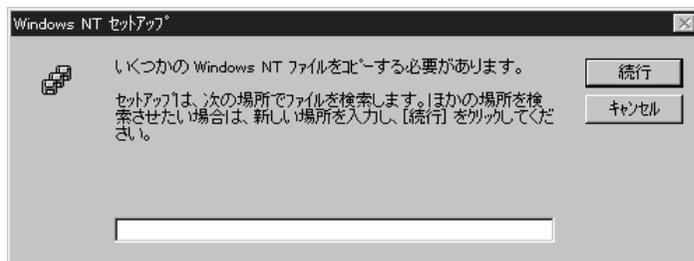
- 3 [ OK ] ボタンをクリックする

メッセージに従ってインストールを継続してください。

以上の操作を行なっても正しくインストールできない場合は、ドライバの提供元にお問い合わせください。

## Windows NT の場合

フロッピーディスクからドライバのインストールを行なっている場合、[ Windows NT セットアップ ] のダイアログボックスが表示される場合があります。



このような場合は次の手順でインストールを継続してください。

- 1** ファイルを検索する場所を入力する  
ファイルを検索する場所に、[ C:¥i386 ] と入力します。
- 2** [ 続行 ] ボタンをクリックする  
メッセージに従ってインストールを継続してください。



# 4

## 機器の拡張について

本章ではパソコン本体にオプションカードやディスク装置、メモリカードなどを取り付ける方法について説明します。  
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

<b>1</b>	作業を始める前に .....	86
<b>2</b>	LAN の接続 .....	88
<b>3</b>	プリンタの接続 .....	96
<b>4</b>	マイク（別売り）の接続 .....	100
<b>5</b>	スピーカ（別売り）の接続 .....	101
<b>6</b>	カバーの取りはずし、取り付け .....	102
<b>7</b>	オプションカード .....	107
<b>8</b>	増設ハードディスク装置 .....	111
<b>9</b>	増設 5 型装置 .....	122
<b>10</b>	増設 3.5 型装置 .....	125
<b>11</b>	増設メモリカード .....	128
<b>12</b>	内蔵バッテリーの交換 .....	132
<b>13</b>	内部ケーブルの接続 .....	134

# 1 作業を始める前に



お願い

- ・システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のある方（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われた方）を対象としております。システム拡張の経験のない方、難しいと思われる方はお買いあげの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

## 作業前の注意事項

湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行なってください。

温度範囲は 10 ~ 35 、湿度範囲は 30 ~ 80 %Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。

必ず周辺機器の取扱説明書をお読みになったうえで、取り付けを行なってください。注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行なってください。

各手順は、必ず正しい順序で行うようにしてください。

取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上など）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。

必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け / 取りはずし作業を行なってください。

作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。

内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

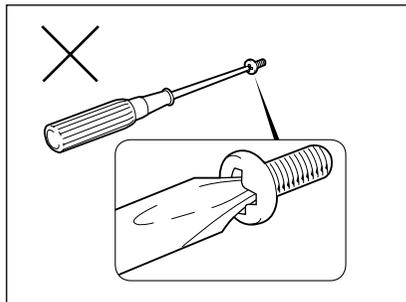
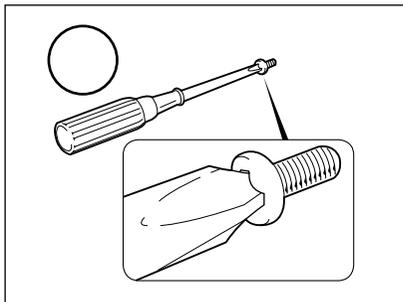
取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。

ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買いあげの販売店にご相談ください。

オプションカードには鋭い突起があります。手を傷つけないようにしてください。

コネクタの接続、オプションカードの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。

ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。電源コードの接続は、アース線、プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、プラグ、アース線の順に行なってください。



- 注意**
- ・この章で説明されている「6 節 カバーの取りはずし、取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切りケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
  - ・本体カバーをはずして作業する場合、電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
  - ・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところがありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋の使用をおすすめします。



お願い

- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

## ● 作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

## ● オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、BIOS セットアップでの設定が必要になるものがあります。

☞ 設定について

- ⇒ 「5 章 BIOS セットアップについて」『各オプションに付属の説明書』

## ② LAN の接続

本装置には、Fast Ethernet LAN (100BASE-TX)、Ethernet LAN (10BASE-T)に対応したLAN インタフェースが実装されています。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項および技術的な内容を説明します。

**注意** ・LAN 使用時は、必ず BIOS セットアップの [ Power ] メニューで [ Power Management ] を「Disabled」に設定しておいてください。サスペンドに移行するとLAN 接続が切断されます。この場合、システムの再起動が必要です。

☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

### ① 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100M ビット / 秒) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

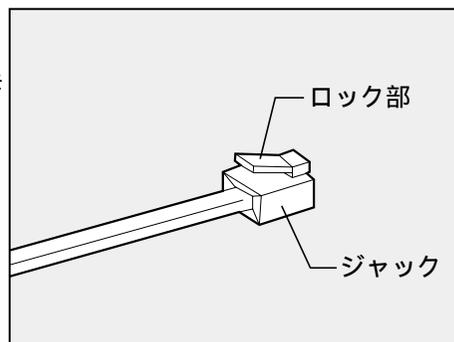
10BASE-T 規格 (10M ビット / 秒) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

### ② LAN ケーブルの接続



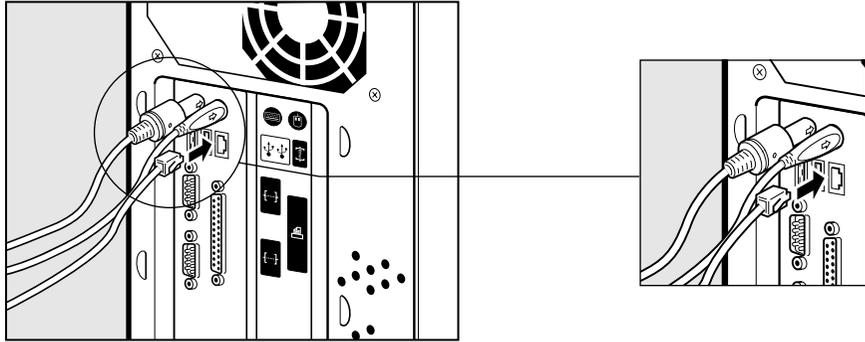
お願い

・LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行なってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 BIOS セットアップの [ Power ] メニューで [ Power Management ] を「Disabled」に設定する  
☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 LAN ケーブルのジャックを本体背面の LAN コネクタに差し込む

パチンと音がするまで差し込んでください。



- 6** LANケーブルのもう一方のジャックをHUB（ハブ）のコネクタに差し込む  
HUB（ハブ）の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

## 3 テクニカル情報

### Fast Ethernet ケーブル

#### 100BASE-TX

100BASE-TXでは、2組のツイストペア・イーサネット（TPE）ケーブルによる100Mbpsの転送をサポートしており、カテゴリ5（CAT5）のケーブルを使用します。100BASE-TXのセグメント長は、最大100メートルに制限されています。

### Fast Ethernet HUB（ハブ）

さまざまなFast Ethernet仕様をサポートするHUBが次々に発表されています。これらのHUBは大きく分けて、シェアードHUBとスイッチングHUBの2つのタイプがあります。EQUIUMシリーズのLANインタフェースでは、どちらのタイプのHUBでも使用できます。

#### シェアードHUB（ハブ）

シェアードHUBを使用しているネットワーク環境では、全ポートが固定の帯域幅（データ容量）を共有しています。100MbpsのシェアードHUBの場合、ハブ上の全ノードが100Mbpsの帯域幅を共有しなければなりません。ハブに新たなステーションが追加されると、個々のステーションが使用できる有効帯域幅は減少します。シェアードHUBは、全車が1レーンを共有する単一レーンの高速道路にたとえられます。高速道路上に車が増えると、トラフィックは混雑し、各車の移動に要する時間は増大します。

シェアードHUBの場合、全ノードが同一の転送速度（10Mbpsまたは100Mbps）で動作しなければなりません。Fast Ethernet HUBの場合、10BASE-Tリピータの10倍の100Mbpsの帯域幅を提供します。

## スイッチング HUB (ハブ)

スイッチング HUB を使用しているネットワーク環境では、各ポートに固定の専用帯域幅が割り当てられます。高速道路の例で言うと、各車が他の車と共有しない独自のレーンを持つことになります。

スイッチング HUB では、データは送信先ステーションにつながるポートにだけ送信されます。ネットワークの帯域幅は全ステーションに共有されているのではなく、HUB に接続された個々のステーションがそれぞれのネットワークの全帯域幅を使用することができます。このためスイッチングハブではネットワークで使用できる帯域幅の合計が効果的に増大するので、パフォーマンスが大きく向上します。

スイッチング HUB では、一部のノードを 10Mbps で使用し、他のノードを 100Mbps で使用できるものもあります。スイッチングハブは洗練された設計により、このようなパフォーマンス上の利点を持ちますが、1 接続あたりの費用は一般にシェアード HUB より高価になります。

## 4 Windows 98 / 95 のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 98 / 95 の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



**注意** ・購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows 98 / 95 のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows 98 / 95 のセットアップを行なってください。



・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

お願い

### ● ネットワークの設定

画面の表示例は Windows 98 の画面です。Windows 95 の場合は異なります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]- [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う  
コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(注) 画面は一例です。

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

ネットワーククライアント ..... ほかのコンピュータに接続する機能です。

プロトコル ..... コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。

アダプタ ..... コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。

サービス ..... このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、ほかのコンピュータから使えるようにします。

**4** [ 識別情報 ] ( Windows 95 の場合は [ ユーザー情報 ] ) タブをクリックし、コンピュータ名、ワークグループをネットワーク管理者の指示に従い、設定する



**注意**

・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値(Default、Default\_Wg)の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



- 5 [アクセスの制御] (Windows 95 の場合は [アクセス権の管理]) タブをクリックし、変更を行う



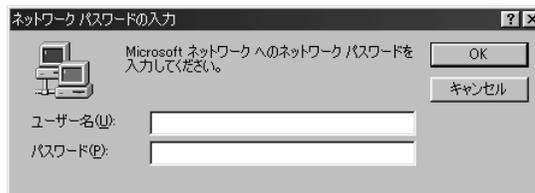
ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

- 6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

## 起動時のパスワードの入力

- 1 パソコンの電源を入れる

- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する  
ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります (ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど)。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

メモ

## 5 Windows NT のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



・ネットワークの設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

お願い

### ● ネットワークの設定

- 1 アドミニストレータ権限でログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]- [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 4 識別、サービス、プロトコル、アダプタ、バインドの設定を行う  
詳細は付属の『ファーストステップガイド Windows NT Workstation』の「ネットワークへの接続」の章をご覧ください。  
なお、出荷時のネットワークの構成は次のようになっています。

アダプタ	: Intel 82558-based Integrated Ethernet with Wake on LAN
プロトコル	: NetBEUI
識別	: WORKGROUP
コンピュータ名	: 初期セットアップ時に入力した名前

プロトコル等を追加する場合「Windows NT Workstation Ver4.0 Disc 1 ラベルの付いた CD-ROM を挿入してください」というダイアログボックスが表示される場合があります。

この場合は、「ファイルのコピー」ダイアログボックスの「ファイルのコピー元 (C : )」に「C : ¥i386」と入力して [OK] ボタンを押してください。



**注意** ・TCP/IP プロトコルなどを追加した場合には、設定完了後、Windows NT 4.0 Service Pack5 をインストールしてください。

- ☞ Service Pack5 のインストールについて
- ☞ 「付録 4-3- Service Pack5 のインストールについて」

## ● 起動時のパスワードの入力

**1** パソコンの電源を入れる

**2** ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する  
ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります  
(ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど)。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

メモ

# 3 プリンタの接続

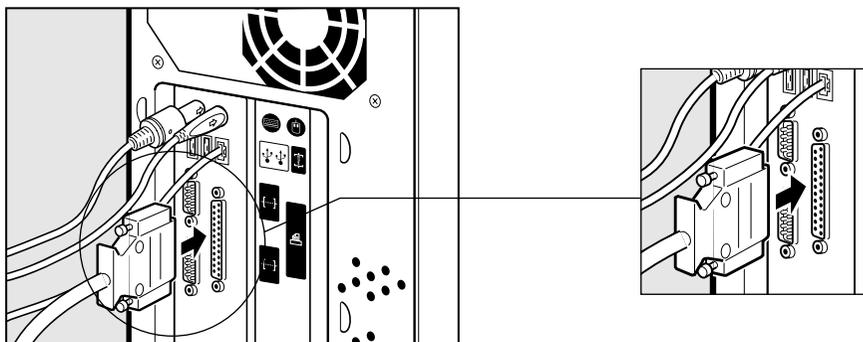
## 1 プリンタの接続



メモ

・プリンタの接続はプリンタによって異なります。詳しくは『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 プリンタケーブルを本体背面のプリンタコネクタに差し込む  
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタケーブルに固定用ネジがあるときは手またはドライバでしっかりと回して固定してください。



- 5 もう一方のプリンタケーブルをプリンタ側コネクタに差し込む  
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタ側のコネクタに金具がついている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。

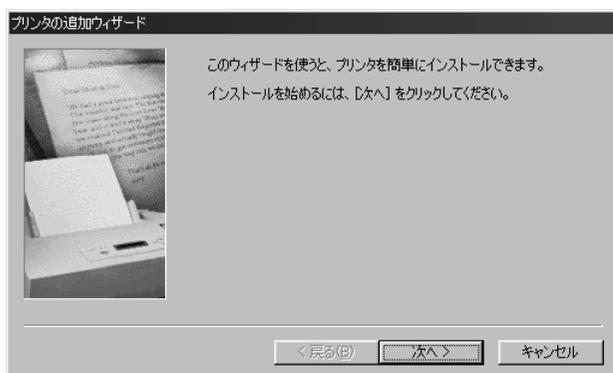
## ② プリンタ設定について

ここでは本体に接続したプリンタを使用可能にする設定方法を説明します。  
画面の表示例は、Windows 98 の画面です。Windows 95 / NT の場合は異なります。  
☞ 詳細について ☞ 『お使いのプリンタに付属の説明書』

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定(S)]-[プリンタ(P)] をクリックする  
[プリンタ] の設定画面が表示されます。



- 2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックする  
[プリンタの追加ウィザード] が表示されます。  
[次へ] ボタンをクリックすると次の設定に移ります。以降の設定作業は、画面に表示される質問に答えながら作業を進めます。



プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。  
ここでは、プリンタの製造元とプリンタ名を選択して [次へ] ボタンをクリックします。  
一覧にない場合は、プリンタの製造元から配給されたプリンタドライバのインストールディスクをセットし、[ディスク使用(H)] ボタンをクリックします。

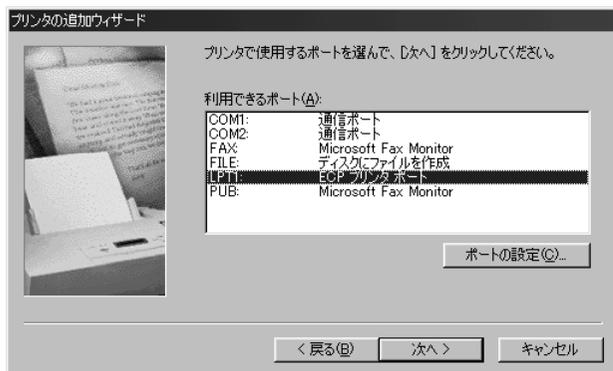


(注) 画面は一例です。

プリンタ設定作業の途中で、次の [ プリンタの追加ウィザード ] が表示されます。

ここでは利用するポートを選択します。

プリンタが本体のプリンタコネクタと接続されているときは、[ LPT1 : プリンタポート ] を選択して [ 次へ ] ボタンをクリックしてください。

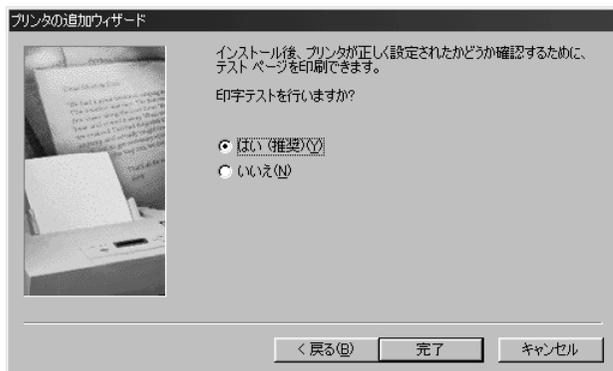


(注) 画面は一例です。

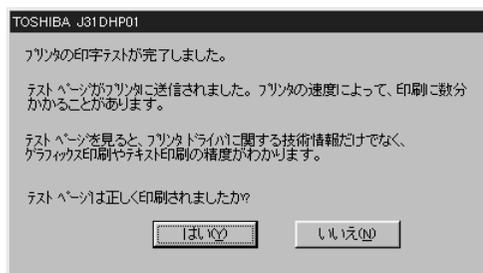
プリンタ設定作業の途中で、次の [ プリンタの追加ウィザード ] が表示されます。

ここではプリンタ機能が正常かどうかを確認するために、テストページを印刷するかを選択します。

印刷する場合は、[ はい (推奨) (Y) ] をチェックし、しない場合は [ いいえ (N) ] をチェックして [ 完了 ] ボタンをクリックしてください。



[はい(推奨)(Y)] をチェックした場合、しばらくすると「プリンタの印字テストが完了しました」というメッセージの画面が表示されます。  
 テストページが正しく印刷されているときは、[はい] ボタンをクリックしてください。印刷結果に異常がある場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。『Windows 98 / 95 / NT のヘルプ』が表示されますので、質問に答えながら設定を変更してください。  
 また、本体とプリンタが正しく接続されているかも確認してください。



(注) 画面は一例です。

[プリンタ] の設定画面に戻り、新規に登録されたプリンタのアイコンが表示されます。これでプリンタの設定作業は終了です。

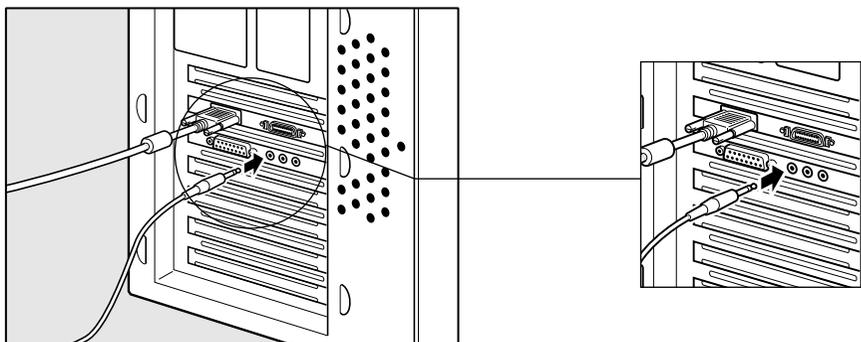


(注) 画面は一例です。

## ④ マイク（別売り）の接続

本製品では、マイク（別売り）を接続できます。使用可能なマイクは、インピーダンス 600 以上のコンデンサマイクロホンのミニジャックタイプ（3.5 ）です。

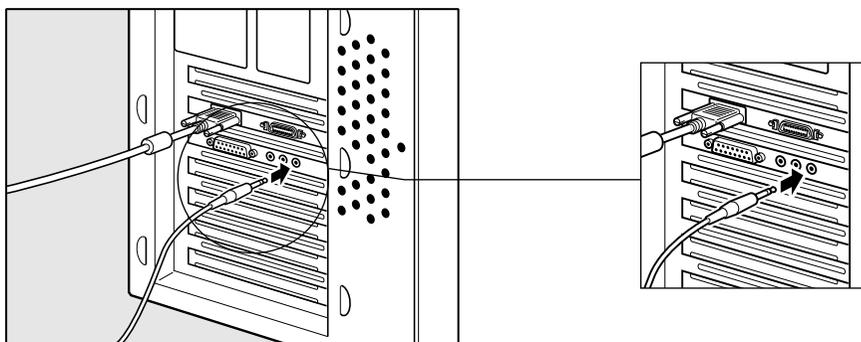
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 パソコン本体の電源を切る
- 4 マイクのプラグを本体背面のマイク端子に差し込む  
しっかりと奥まで差し込んでください。



## 5 スピーカ（別売り）の接続

本製品では、アンプ付きのスピーカ（別売り）を接続できます。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 パソコン本体の電源を切る
- 4 スピーカのプラグを本体背面の LINE OUT 端子に差し込む  
しっかりと奥まで差し込んでください。



# ⑥ カバーの取りはずし、取り付け

- 注意** ・オプションの装着などのほかは、カバーを開けないでください。  
故障の原因となる場合があります。  
・カバー裏側の板金や基板などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部であるため、カバーを取りはずすことが必要です。

先にカバーの取りはずし方、取り付け方をまとめて説明します。

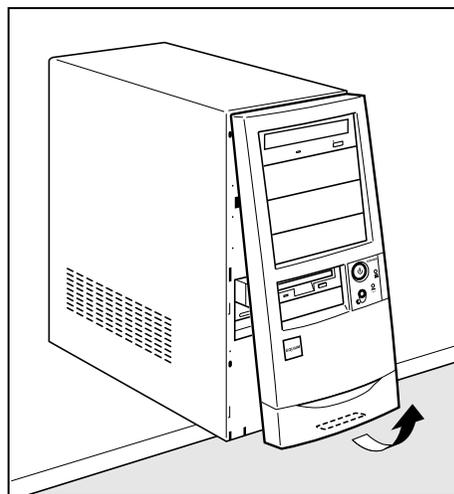
それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

## ① カバーの取りはずし

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

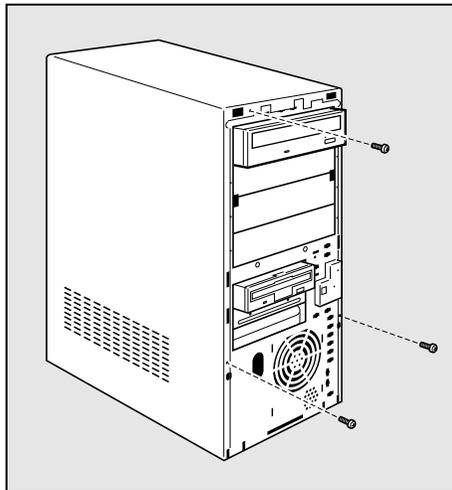
- 注意** ・電源を切っただけでは、メインボードなどは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差しなどを行うと、故障の原因となります。  
必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

- 5 安定した台の端にパソコン本体を置く
- 6 フロントベゼルを取りはずす  
フロントベゼル底面のくぼみに手をかけ、強くにぎりながら手前におもいきり引いてください。

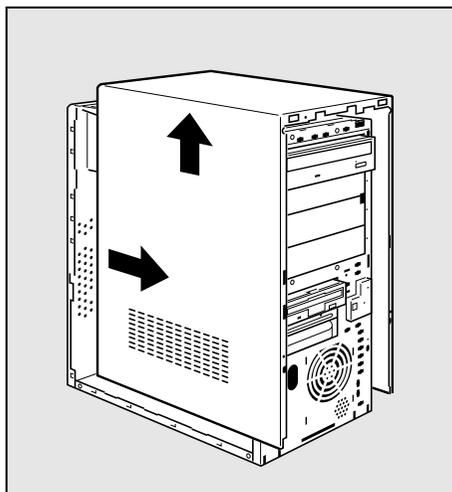


- 注意** ・台からパソコン本体が落ちないようにしっかりとおさえて作業を行ってください。

- 7** 本体正面のカバーを固定しているネジ3本をはずす

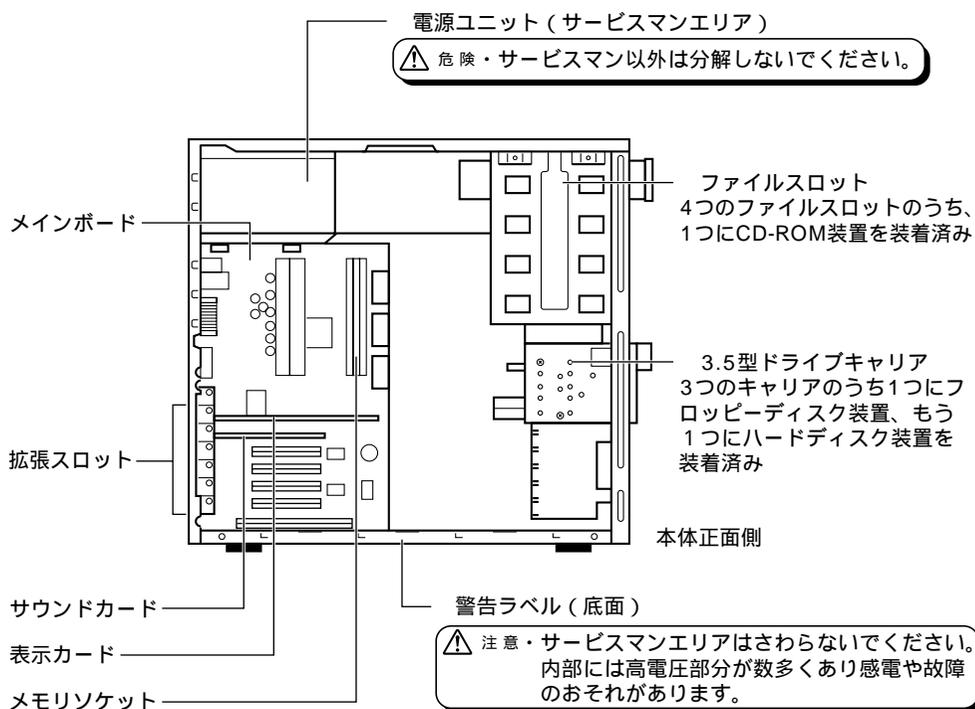


- 8** カバーを前方に2cmほどスライドさせ、真上に持ち上げて、取りはずす



**注意** ・カバーの取り扱いに注意してください。  
落としたり、ぶついたりして手や足をケガするおそれがあります。

## ② カバーを取りはずしたところ（横面から）



以外はユーザ作業エリアです。

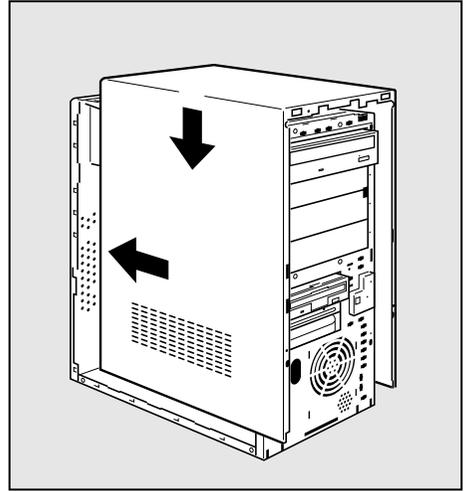


注意 ・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。

高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

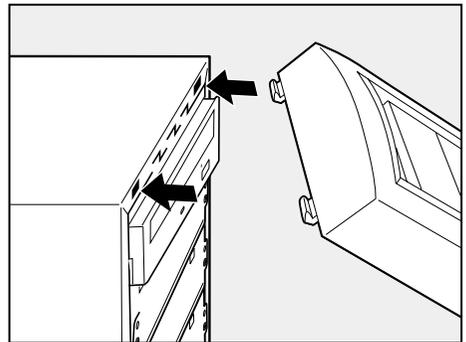
### 3 カバーの取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体正面より 2cm ほど前にずらした状態でカバーをかぶせ、カバーを後方にスライドさせる  
本体のレールにカバーの左右のレールがのるようにかぶせてください。



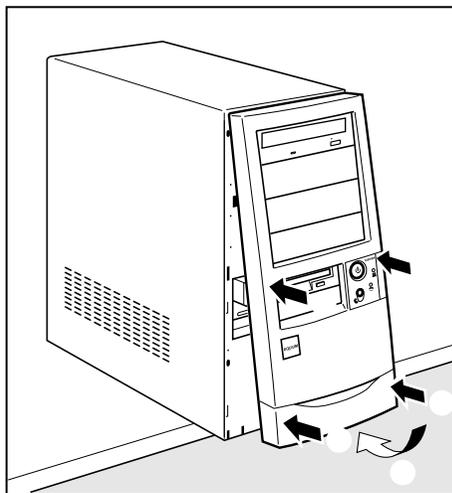
- 注意** ・カバーをかぶせるときに、カバーとレールの間に指をはさまないように注意してください。  
・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

- 4 ネジ 3 本で、カバーを本体に固定する
- 5 フロントベゼル上面のツメを本体に引っかける



**6** フロントベゼルを本体に取り付け、固定する

フロントベゼルの左右中程と下側を押して本体にしっかりと固定してください。



# 7 オプションカード



お願い

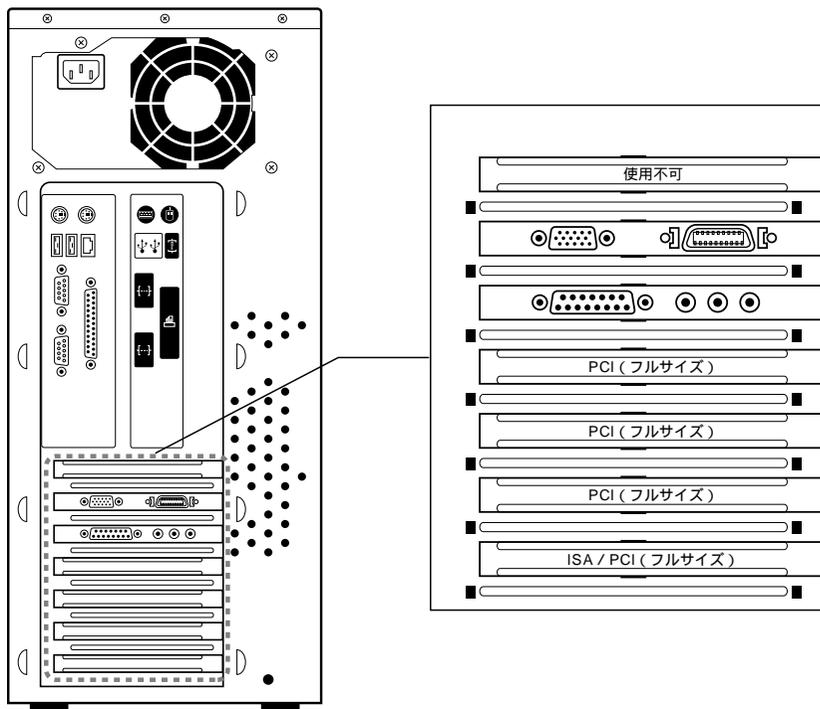
・Windows NTの場合

プラグアンドプレイ対応ISAカードはWindows NTではサポートしていないため、使用できません。プラグアンドプレイに対応していないISAカードを使用するか、またはプラグアンドプレイを無効にできるISAカードを使用してください。

## 1 拡張スロットの位置

本体にはオプションカード用の拡張スロットが合計6個用意されています（最上段のスロットは、表示カード用AGPスロットです。PCIまたはISAカードに変更することはできません）。

内2つは表示カードとサウンドカードで使用しています。



**注意** ・オプションカードの取り付けに際しては、拡張スロットの電流容量を超えないように注意してください。

👉 電流容量について

- ⇒ 「付録 2-9- 拡張スロットの電流容量」
- ⇒ 『各オプションカードに付属の説明書』



お願い

・オプションカードは、特に静電気に対して敏感で、その取り扱いには注意が必要です。

カードを持つときは、カードの縁を持つようにして、部品や金メッキ部分には触らないようにしてください。保護袋や本体からカードを抜き出したときには、水平で、接地された、静電気の無いところに、部品面を上にして置くようにしてください。

カードは、どんな面の上でも、滑らせて移動させないでください。

## ● オプションカード外形図

各スロット用のカードの種類と本体に装着可能なカードの外形図を示します。



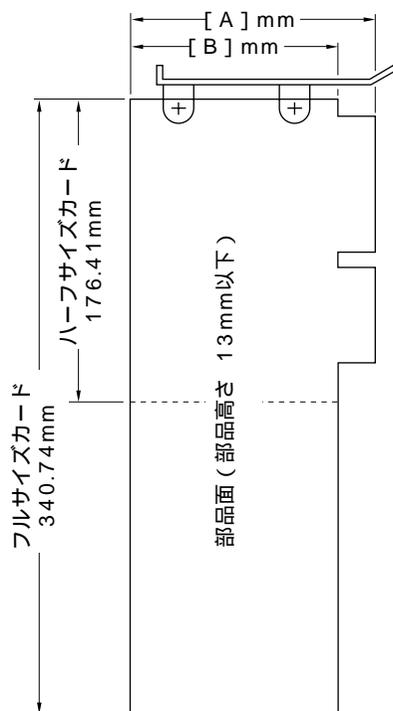
**注意** ・ISA タイプカードと PCI タイプカードでは部品実装面が異なります。  
接触による事故防止のため高さ制限を守ったカードを使用してください。



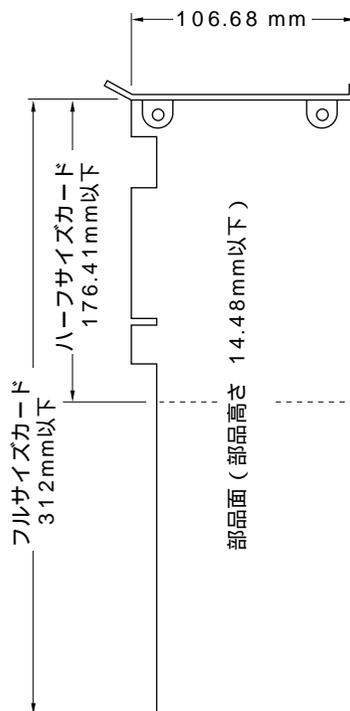
お願い

・本体内に装着できる ISA タイプカード、PCI タイプカードは、次に示すサイズ以下のものです。このサイズを超える大きさのカードは取り付けないでください。故障や不具合が発生する場合があります。

### ●ISA タイプカード外形図



### ●PCI タイプカード外形図



サイズ	[ A ] mm	[ B ] mm
カードの種類		
幅広タイプ	121.92	114.30
標準タイプ	106.68	99.06

## ② オプションカードの取り付け



・この作業を行うとき、メインボードや他のボードの部品を損傷しないように注意してください。

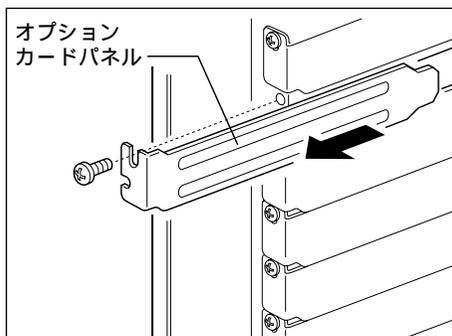
お願い

**1** 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

**2** カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

**3** オプションカードパネルを固定しているネジ 1 本をはずしてパネルを取りはずす  
取りはずしたパネルは、大切に保管しておいてください。



**4** 保護袋からオプションカードを抜き出し、水平で、接地された、静電気の無いところに、部品面を上にして置く

保護袋は再度取りはずしたときのために保管しておいてください。

**5** カードのジャンパやスイッチの設定が必要な場合は、カードに付属の説明書に従って設定をする

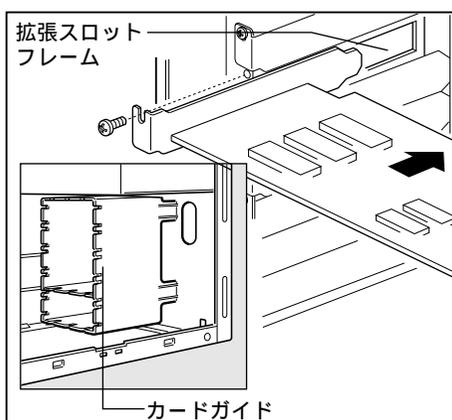


メモ

・Windows NT の場合、プラグアンドプレイには対応していません。

**6** カードの上の縁、または上の角のところを持って、図のようにカードをセットする  
オプションカードのエッジ（金メッキ部分）を拡張スロットコネクタにしっかり合わせて押し入れます。

フルサイズカードを取り付ける場合は、ボードの片側の端をプラスチックのカードガイドにしっかり合わせるようにします。



**注意** ・オプションカードをセットするときは、本体内部のケーブルを傷つけないようにしてください。

ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。

- 7 拡張スロットフレームのネジ穴と、オプションのコネクタパネルの切れ込みを合わせる  
コネクタパネルは、オプションカードパネルのあった場所にぴったりと納まります。
- 8 ネジを止める  
ネジをしめる前に、コネクタパネルをネジの方に、上に寄せるようにします。これをしないと、このパネルが、隣のスロットのカバーやオプションカードに接触してしまいます。
- 9 必要があれば取り付けたオプションカードにケーブル類を接続する
- 10 カバーを取り付ける  
☞「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

### 3 オプションカードの取りはずし

オプションカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 カバーを取りはずす  
☞「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 オプションカードに接続されているケーブルがあれば、はずす  
再度取り付けるときのために、取りはずしたケーブルは大切に保管しておいてください。
- 4 オプションカードのコネクタパネルと本体を止めているネジをはずす
- 5 オプションカードの縁を持って、カードが拡張スロットコネクタからはずれるまで引き抜く



**注意** ・オプションカードには鋭い突起があります。オプションカードを引き抜くときは手を傷つけないよう手袋などで保護してください。  
・オプションカードを引き抜くときは、本体内部のケーブルに傷がつかないようにしてください。ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。

- 6 オプションカードを、静電気対策された保護袋に入れて保管する
- 7 取りはずしたときに保管してあったオプションカードパネルを取り付けてネジ止めする



**注意** ・空いたスロットには必ずオプションカードパネルをつけるようにしてください。電磁ノイズと機器の冷却に問題が起きることがあります。

- 8 カバーを取り付ける  
☞「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

# 8

# 増設ハードディスク装置

本装置のIDE インタフェースにIDE ハードディスク装置を接続し、増設する方法について説明します。

☞「本章 7 オプションカード」

## 1 IDE インタフェースについて

IDE ハードディスク装置は本装置のメインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースに合計 2 台まで接続することができます。

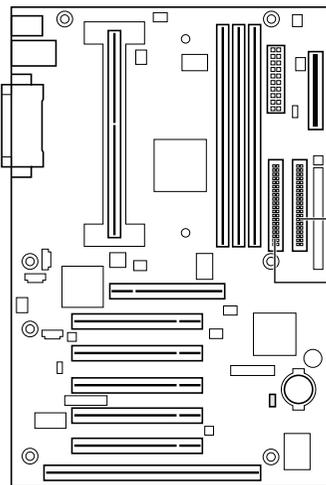


お願い

・増設ハードディスク装置を 2 台以上増設する場合は、本体に SCSI カードなどを取り付け、カードなどのインタフェースに接続してください。

1 台目をマスタ (Master)、2 台目をスレーブ (Slave) と呼びます。

本装置では、第 1 (Primary) IDE インタフェースのマスタ (Master) にハードディスク装置、第 2 (Secondary) IDE インタフェースのマスタ (Master) に CD-ROM 装置が接続されています。



第 1 (Primary) IDE  
インタフェース

第 2 (Secondary) IDE  
インタフェース

## 接続時の注意

本装置に IDE 装置を増設する場合は、必ず次の表のように増設を行なってください。

第 1 (Primary) IDE インタフェース		第 2 (Secondary) IDE インタフェース	
マスタ (Master)	スレーブ (Slave)	マスタ (Master)	スレーブ (Slave)
ハードディスク装置接続済	増設 1 台目 (空き)	CD-ROM 装置接続済	空き

☞ 増設ハードディスク装置の取り付け ☞ 『増設ハードディスク装置の説明書』



**注意** ・増設ハードディスク装置はEQUIUM 専用のオプションをお買い求めください。取り付けについてはオプション付属の説明書をご覧ください。  
なお、PV3000 シリーズ専用の増設ハードディスク装置はご利用になることはできません。

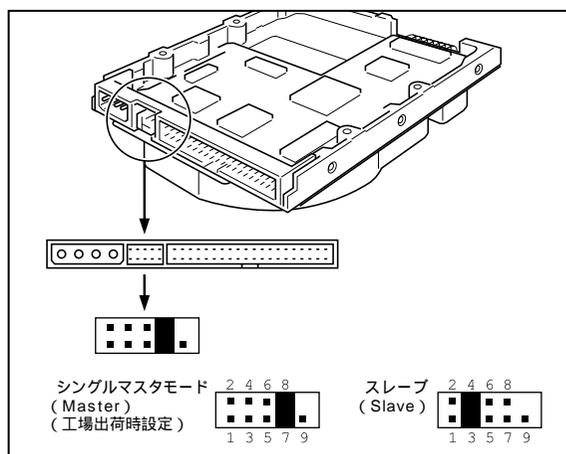
## ② 増設ハードディスク装置のジャンパについて

IDE インタフェースに増設ハードディスク装置を接続する場合は、増設ハードディスク装置にマスタ (Master) とスレーブ (Slave) の設定を行う必要があります。

### ● 第 1 (Primary) IDE インタフェースにハードディスク装置を増設する場合

増設するハードディスク装置の設定をスレーブ (Slave) にしてください。  
接続する増設ハードディスク装置のタイプ (A / B) によってジャンパの設定が異なります。接続する装置に合った設定を行なってください。

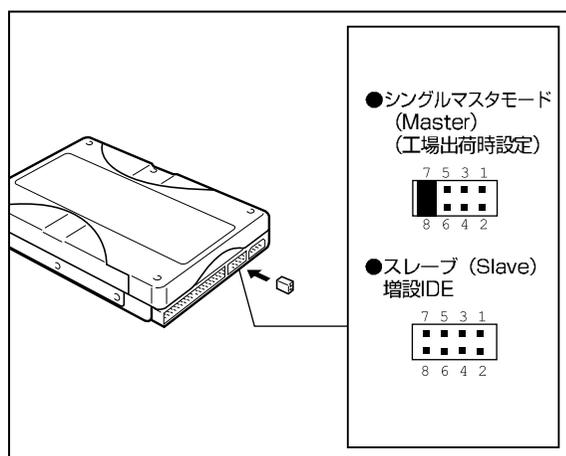
#### タイプ A の設定



お願い

・ハードディスク装置を 1 台で使用する場合は、ジャンパストラップをシングルマスタ (Master) モードに設定してください。スレーブ (Slave) の設定では、動作しません。

#### タイプ B の設定



お願い

・ハードディスク装置を 1 台で使用する場合は、ジャンパストラップをシングルマスタモード (Master) に設定してください。スレーブ (Slave) の設定では、動作しません。

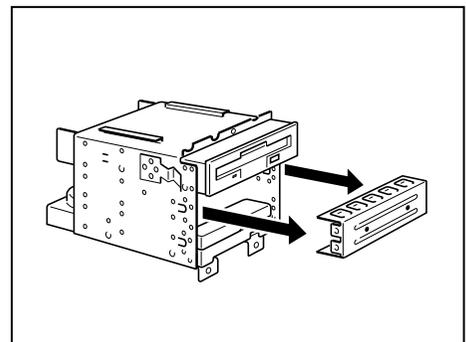
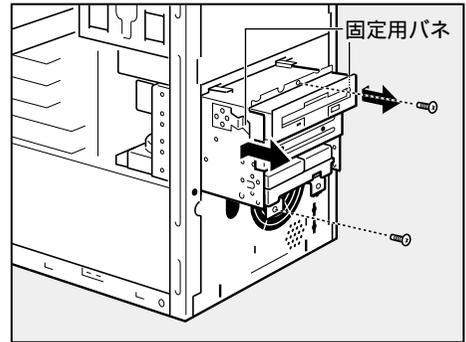
### ③ 増設ハードディスク装置の取り付け / 取りはずし



メモ

・増設 3.5 型装置を取り付けている場合、増設ハードディスク装置を取り付けることはできません。

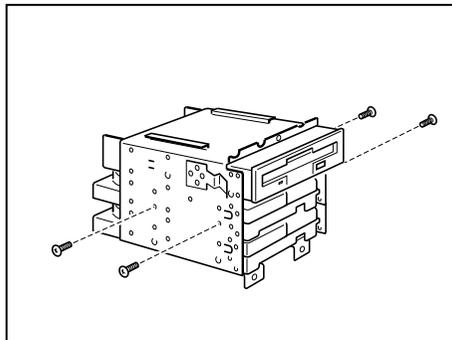
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 カバーを取りはずす  
☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 ハードディスクのジャンパを設定する  
☞ 「本節 2 増設ハードディスクのジャンパについて」
- 4 フロッピーディスク装置と、ハードディスク装置に接続されている電源コネクタとケーブルをはずす
- 5 3.5 型ドライブキャリアを固定しているネジ 2 本をはずし、3.5 型ドライブキャリアの左右のバネを押しながら、引き抜く
- 6 ブランクパネルを取りはずす



**注意** ・本体のファイルスロット板金部とblankパネルの先は鋭くなっているので、ケガをしないように注意してください。

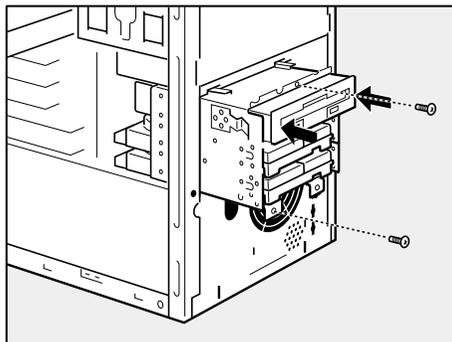
## 7 増設ハードディスク装置を 3.5 型ドライブキャリアに取り付ける

増設ハードディスク装置を挿入し、本体に同梱のネジ 4 本で固定します。



## 8 3.5 型ドライブキャリアをファイルスロットに取り付け、ネジ 2 本で固定する

キャリア上部のレールと本体側のレールがかみ合うように入れ、バネで固定されるまで押し込みます。



**注意** ・取り付けるときは、ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

## 9 コネクタの向きを確認し、増設ハードディスク装置およびフロッピーディスク装置、ハードディスク装置にケーブルを接続する

ケーブルが正しい場所に接続されているか確認してください。

☞「本章 13 内部ケーブルの接続」

## 10 電源コネクタを増設ハードディスク装置およびフロッピーディスク装置、ハードディスク装置に接続する

## 11 カバーを取り付ける

☞「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

取りはずしは、取り付けの逆の手順で行なってください。

## 4 増設ハードディスク装置の設定

何もインストールされていないハードディスク装置を増設した後、システムに認識させるには、次の操作が必要です。

### Windows 98 / 95 の場合

ここではWindows 98 を例に説明します。

☞ ハードディスク装置の増設方法

⇒ 「本節 3 増設ハードディスク装置の取り付け / 取りはずし」

#### 1 Windows を起動し、[スタート]メニューから[プログラム] - [MS-DOS プロンプト]を選択する

[MS-DOS プロンプト]画面が表示されます。

#### 2 FDISKと入力し、[Enter] キーを押す

次の画面が表示されます。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクで他のオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか（Y/N）.....?[N]

[Y]を選択すると、FAT32ファイルシステムに対応したオペレーティングシステムのみ使用可能になります。

[N]を選択すると、（旧）バージョンのWindows 95でも使用可能になります。

選択後、FDISK オプションが起動します。

#### FDISKオプション

現在のハードディスク： 1

次のうちからどれか選んでください：

1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください： [1]

FDISKを終了するにはEscキーを押してください。

#### 3 [5][Enter] とキーを押す

メニューの [5.現在のハードディスクドライブを変更] が選択されます。

**4** [ 2 ] [ Enter ] とキーを押す

増設したディスク 2 のハードディスク装置が選択され、FDISK オプションの初期画面に戻ります。

**5** [ 1 ] [ Enter ] とキーを押す

[ 1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成 ] が選択されます。

**6** [ 1 ] [ Enter ] とキーを押す

[ 1. 基本 MS-DOS 領域を作成 ] が選択されます。

**7** [ Enter ] キーを押す

基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズが割り当てられます。

**8** [ Esc ] キーを 3 回押し、FDISK オプションを終了する

**9** EXIT と入力し、[ Enter ] キーを押す

MS-DOS プロンプトが終了します。

**10** [ スタート ] メニューから [ Windows の終了(U) ] - [ 再起動する(R) ] を選択し、[ OK ] を選択する

システムが再起動します。

[ マイコンピュータ ] を起動し、増設したハードディスクが表示されていることを確認してください。



(注) 画面は一例です。

**11** [ マイコンピュータ ] 画面から、新しく追加したドライブを選択する

**12** [ ファイル(F) ] メニューから [ フォーマット(M) ] を選択する

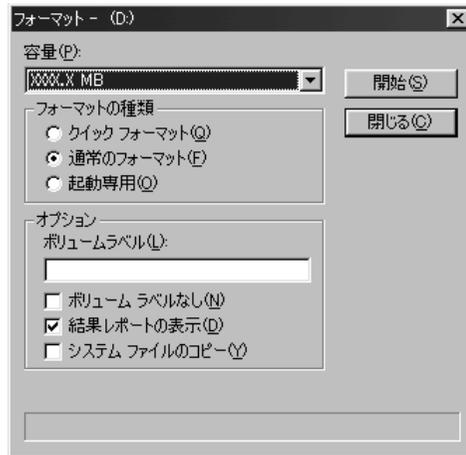
[ フォーマット ] 画面が表示されます。タイトルバーに「フォーマット ( X : )」と表示されていることを確認してください。



**注意** ・選択するドライブを間違えないでください。フォーマットすると、ディスクの内容はすべて消去されてしまいます。



- 13** [フォーマットの種類] から [通常フォーマット(F)] を選択し、[開始(S)] を選択する



警告のメッセージが表示されます。



- 14** 確認し、[OK] を選択する

フォーマットが終了すると、結果が表示されます。確認して [閉じる] を選択してください。

フォーマット終了後、スキャンディスク (ディスクのエラーをチェックする機能) が起動します。スキャンディスクが必要な方はメッセージに従って操作してください。以上で増設ハードディスク装置の設定が終了し、使用できるようになります。

**注意** ・増設ハードディスク装置の設定終了後は、システムを再起動してください。再起動しないとロングファイル名を使用できない場合があります。

## Windows NT の場合

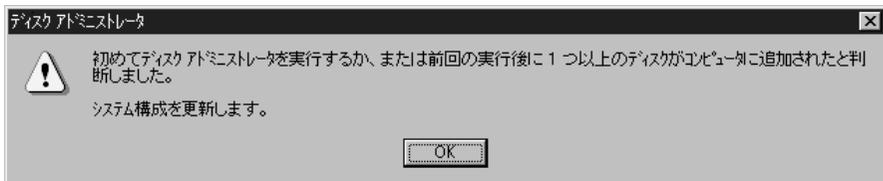
☞ ハードディスク装置の増設方法

⇒ 「本節 3 増設ハードディスク装置の取り付け / 取りはずし」

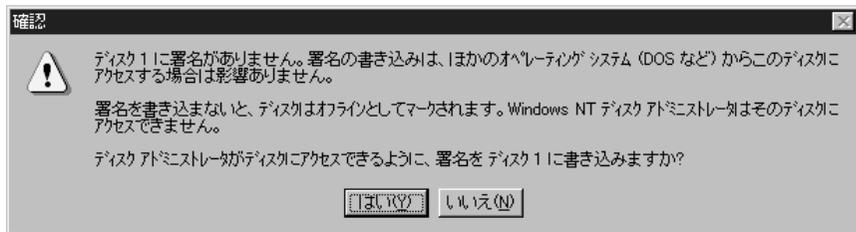
- 1 Windows NT を起動し、Administrator 権限でログオンする  
Administrator 権限のあるユーザ名、パスワードでログオンしてください。権限がない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

☞ 「2 章 2-3 Windows NT のセットアップ」

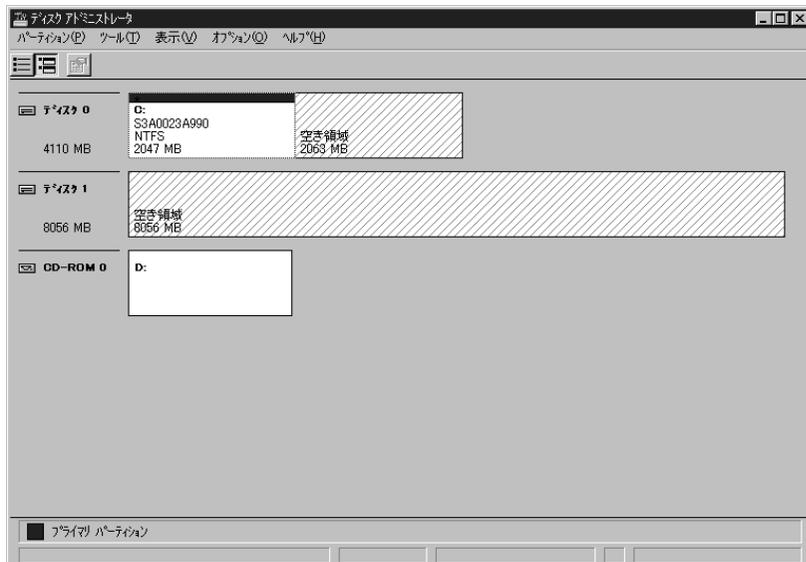
- 2 [スタート]メニューから [プログラム (P)] - [管理ツール (共通)] - [ディスクアドミニストレータ] をクリックする  
ハードディスクを増設した後の最初の起動では、次のような画面が表示されます。



- 3 [OK] ボタンをクリックする  
次のような画面が表示されます。

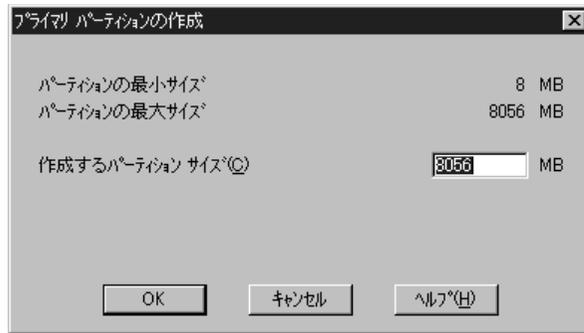


- 4 [はい (Y)] ボタンをクリックする  
[ディスクアドミニストレータ] の画面が表示されます。



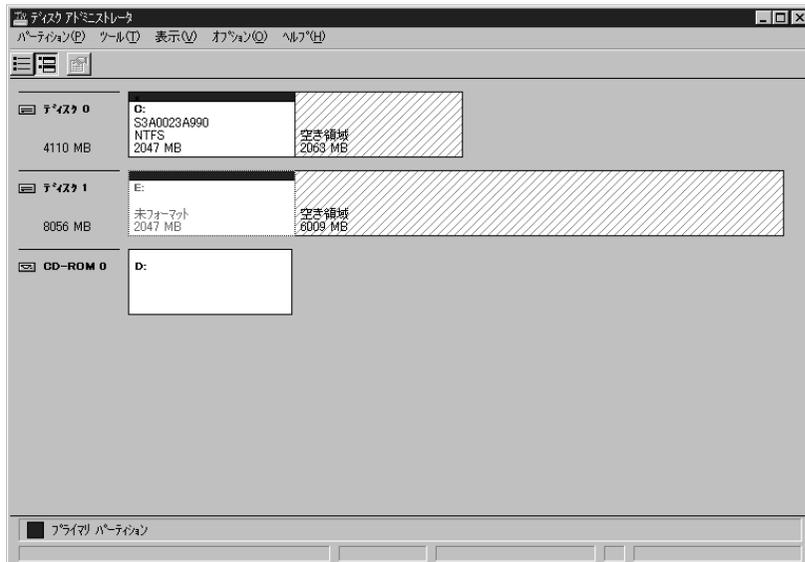
(注) 画面は一例です。

- 5** 増設したハードディスク（例：ディスク 1）の「空き領域」をクリックする  
「空き領域」全体が黒い太線で囲まれます。
- 6** メニューの [パーティション (P)] - [作成 (C)] をクリックする  
[パーティション (P)] - [拡張パーティションの作成 (E)] をクリックすると拡張パーティションが作成できますが、ここでは [作成 (C)] をクリックし、増設したディスク 1 にプライマリパーティション (E ドライブ) を作成する例を説明します。  
[プライマリパーティションの作成] 画面が表示されます。



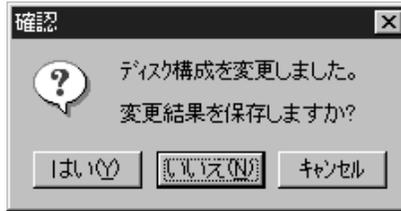
(注) 画面は一例です。

- 7** 作成するパーティションサイズ（例：2048）を入力する  
既定値として表示されている値は、ディスク 1 に作成可能な最大サイズが表示されています。ここでは、パーティションサイズとして 2048 MB を指定する例を説明します。
- 8** [OK] ボタンをクリックする  
次のような画面が表示されます。



(注) 画面は一例です。

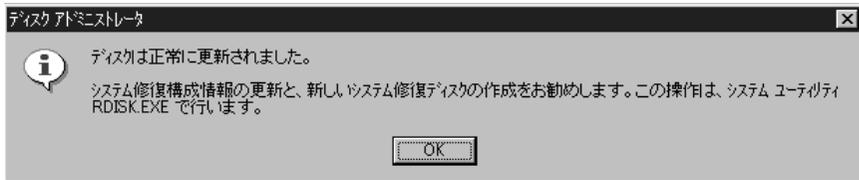
- 9 [パーティション (P)] - [今すぐ変更を反映 (O)] をクリックする  
次のような画面が表示されます。



- 10 [はい (Y)] ボタンをクリックする

次のような画面が表示されます。ハードディスクのフォーマット作業が完了したら、システム修復ディスクの再作成を行なってください。

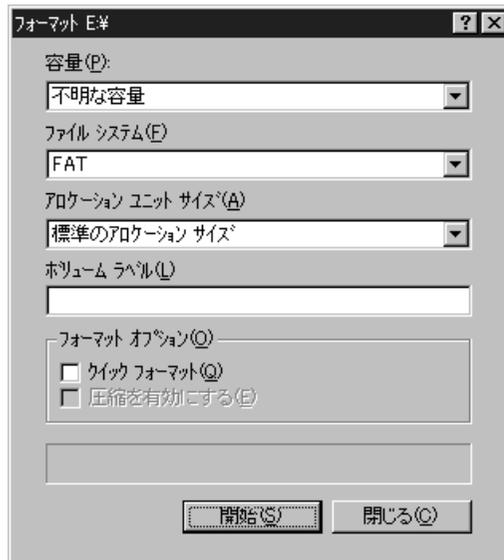
☞ システム修復ディスクの作成 ☞ 「2 章 2-3 Windows NT のセットアップ」



- 11 ディスク 1 の「E ドライブ」をクリックする

E ドライブ全体が太線で囲われます。

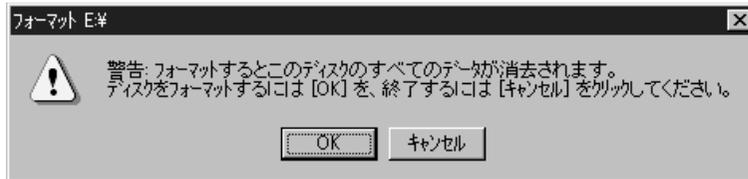
- 12 [ツール (T)] - [フォーマット (F)] をクリックする  
[フォーマット] 画面が表示されます。



### 13 [ファイルシステム (F)] で FAT または NTFS を選択し、[開始 (S)] をクリックする

次のような確認画面が表示されます。

**注意** ・フォーマットを開始すると、そのドライブのすべての情報 (ファイル) が消えます。



### 14 [OK] ボタンをクリックする

フォーマットを開始します。

フォーマットが完了すると次のような画面が表示されます。



### 15 [OK] ボタンをクリックし、画面を閉じる

### 16 [フォーマット] 画面の [閉じる (C)] ボタンをクリックし、[フォーマット] 画面を閉じる

以上でフォーマットは完了です。

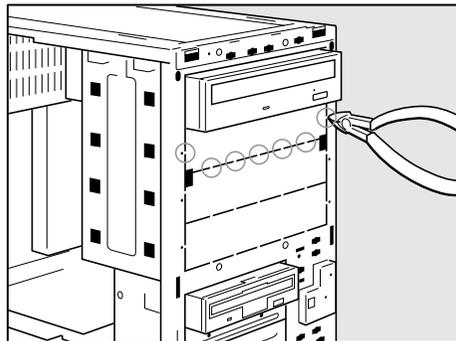
ドライブ文字を変更する場合には、[ツール (T)] メニューの [ドライブ文字の割り当て (V)] を選択してドライブ文字を変更してください。

すべての作業が終了したら、ディスクアドミニストレータを終了してください。

# 9 増設 5 型装置

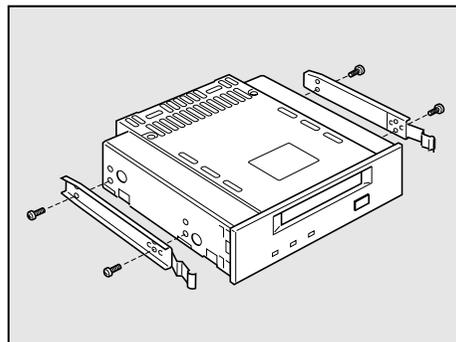
## 1 増設 5 型装置の取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 カバーを取りはずす  
☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 装着するオプション装置によっては、装置側のジャンプスイッチやディップスイッチの設定をする  
☞ 設定について ☞ 『それぞれの装置に付属の説明書』
- 4 オプション装置を取り付けるファイルスロットのシールドパネルをニッパなどで切り離す



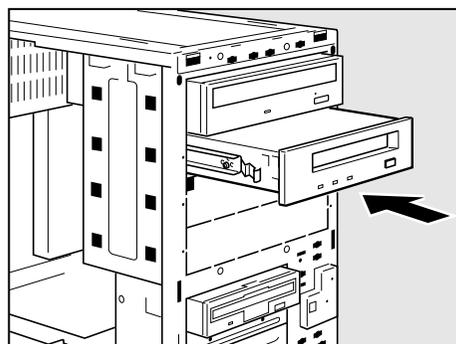
**!** 注意 ・シールドパネルを切り取った後の突起およびシールドパネルには十分ご注意ください。ケガをするおそれがあります。

- 5 オプション装置に付属の 5 型装置用増設ガイドレールを取り付ける



- 6 本体のファイルスロットにオプション装置を取り付ける

バネで固定されるまで押し込んでください。ケーブルを巻き込まないように注意してください。





**注意** ・本体のファイルスロット板金部は鋭くなっていますので、増設装置を取り付けるときはケガをしないように注意してください。

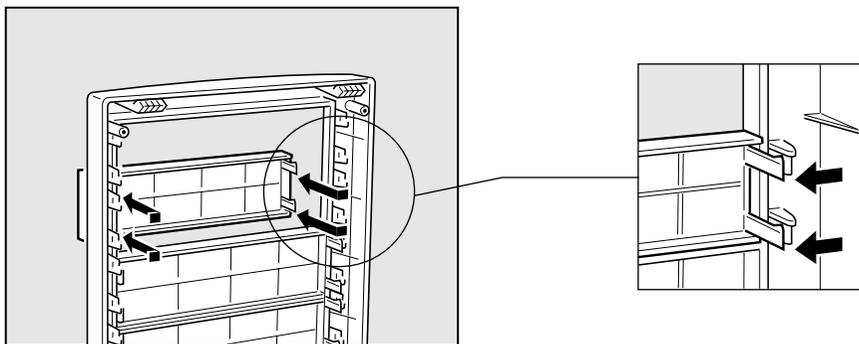
## 7 オプション装置とケーブルを接続する

ケーブルが正しい場所に接続されているか確認してください。

⇒ オプション装置のケーブル接続 ⇨ 『オプション装置に付属の説明書』

## 8 電源コネクタをオプション装置に接続する

## 9 フロントベゼルに付いているファイルスロットカバーを取りはずす



お願い

・取りはずしたファイルスロットカバーは、なくさないように大切に保管してください。

## 10 カバーを取り付ける

⇒ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

## 11 電源コードを接続し、本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる

## 12 必要があれば、セットアッププログラムを起動し、設定を変更する

⇒ 「5章 BIOS セットアップについて」

## ② 増設 5 型装置の取りはずし

増設 5 型装置の取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 カバーを取りはずす  
☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 オプション装置に接続されている電源コネクタとケーブルをはずす
- 4 オプション装置とファイルスロットを固定しているバネをおさえ、オプション装置を取り出す  
取りはずした装置は、適切な箱などに入れて大切に保管してください。
- 5 フロントベゼルにファイルスロットカバーを取り付ける  
オプション装置を取り付けていた位置に取り付けます。
- 6 カバーを取り付ける  
☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」
- 7 電源コードを接続し、本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる
- 8 必要があれば、セットアッププログラムを起動し、設定を変更する  
☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

# 10 増設 3.5 型装置

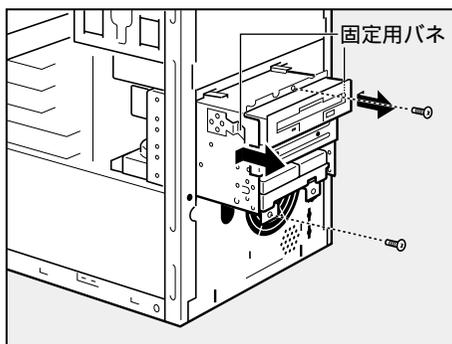


メモ

・増設ハードディスク装置を取り付けている場合、増設 3.5 型装置を取り付けることはできません。

## 1 増設 3.5 型装置の取り付け

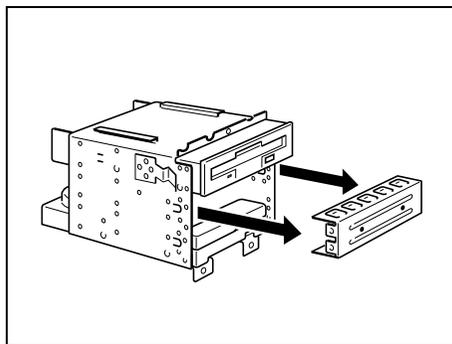
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 カバーを取りはずす  
☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 フロッピーディスク装置と、ハードディスク装置に接続されている電源コネクタとケーブルをはずす
- 4 3.5 型ドライブキャリアを固定しているネジ 2 本をはずし、3.5 型ドライブキャリアの左右のバネを押しながら、引き抜く



- 5 装着するオプション装置によっては、装置側のジャンプスイッチやディップスイッチの設定をする  
☞ 設定について ☞ 『それぞれの装置に付属の説明書』
- 6 ブランクパネルを取りはずす

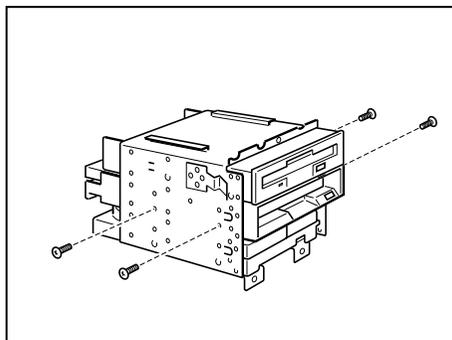


注意 ・本体のファイルスロット板金部とブランクパネルの先は鋭くなっているため、ケガをしないように注意してください。



## 7 オプション装置を 3.5 型ドライブキャリアに取り付ける

オプション装置を挿入し、本体に同梱のネジ 4 本で固定します。

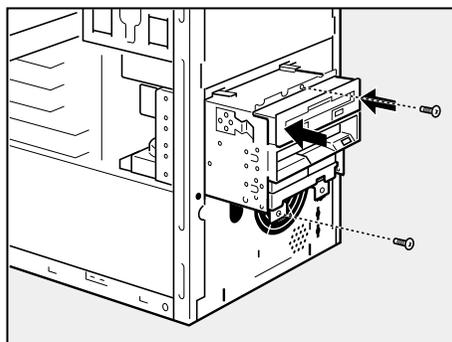


お願い

・本体に同梱のネジにはミリネジとインチネジがあります。取り付けるオプション装置によって使用するネジは違います。確認してご使用ください。

## 8 増設 3.5 型ドライブキャリアをファイルスロットに取り付け、ネジ 2 本で固定する

キャリア上部のレールと本体側のレールがかみ合うように入れ、パネで固定されるまで押し込みます。



**注意** ・取り付けるときは、ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

## 9 オプション装置およびフロッピーディスク装置、ハードディスク装置にケーブルを接続する

ケーブルが正しい場所に接続されているか確認してください。

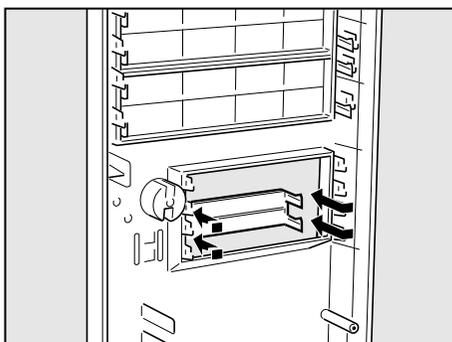
☞ オプション装置のケーブル接続

☞ 『オプション装置に付属の説明書』、「本章 13 内部ケーブルの接続」

## 10 電源コネクタをオプション装置およびフロッピーディスク装置、ハードディスク装置に接続する

☞ 「本章 13 内部ケーブルの接続」

## 11 フロントベゼルに付いているファイルスロットカバーを取りはずす



お願い

・取りはずしたファイルスロットカバーは、なくさないように大切に保管してください。

- 12 カバーを取り付ける  
☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」
- 13 電源コードを接続し、本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる
- 14 必要があれば、セットアッププログラムを起動し、設定変更する  
☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

## ② 増設 3.5 型装置の取りはずし

増設 3.5 型装置の取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 カバーを取りはずす  
☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 オプション装置およびフロッピーディスク装置、ハードディスク装置に接続されている電源コネクタとケーブルを取りはずす
- 4 3.5 型ドライブキャリアを固定しているネジ 2 本をはずし、ファイルスロットから 3.5 型ドライブキャリアを取りはずす
- 5 オプション装置とドライブキャリアを固定しているネジ 4 本をはずし、オプション装置を取りはずす  
取りはずした装置は、適切な箱などに入れて大切に保管してください。
- 6 ブランクパネルを取り付ける  
オプション装置が入っていた位置に取り付けます。
- 7 ファイルスロットに 3.5 型ドライブキャリアを取り付け、ネジ 2 本で固定する
- 8 フロッピーディスク装置およびハードディスク装置に電源コネクタとケーブルを接続する
- 9 フロントベゼルにファイルスロットカバーを取り付ける  
オプション装置が入っていた位置に取り付けます。
- 10 カバーを取り付ける  
☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」
- 11 電源コードを接続し、本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる
- 12 必要があれば、セットアッププログラムを起動し、設定変更する  
☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

# 11 増設メモリカード



お願い

- ・必ずメモリカードの取扱説明書をお読みになったうえで作業を行なってください。
- ・使用できる増設メモリカードは2枚までです。
- ・増設メモリカードの取り付けが難しいと思われる方は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

本装置には次のメモリカードが取り付けられます。

増設メモリカード	型番	対応システムバスクロック
増設64MBメモリカードB	PVP121JA	100MHz



注意

- ・本装置は、メモリバスクロック 100MHz で動作しています。異種のメモリ周波数の製品を使用すると正常に動作しない場合があります。
- ・メモリカードを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または、故障の原因になります。

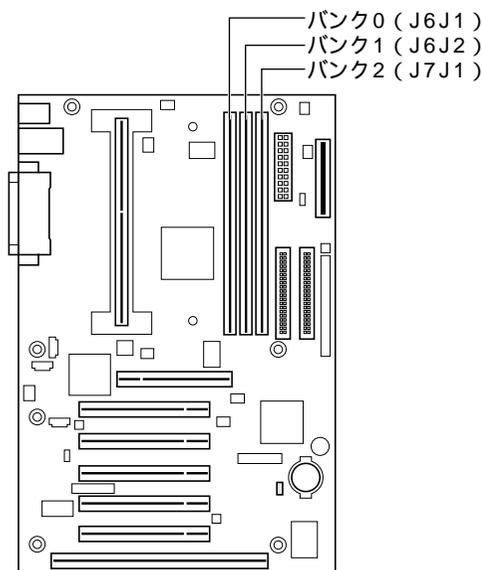


メモ

- ・上記に示したメモリカードはECC対応です。
  - ・ECC対応のメモリカードとECC未対応のメモリカードを併用した場合、ECC機能はサポートされません。
- ☞ 「5章 BIOS セットアップについて (ECC Configuration)」

モデルにより、メモリ容量は異なります。次の表は、標準 64MB 搭載モデルの場合の増設例です。

バンク0	バンク1	バンク2	総メモリ容量
64MB (標準)			64MB
64MB (標準)	64MB (増設)		128MB
64MB (標準)	64MB (増設)	64MB (増設)	192MB



お願い

- ・増設メモリカードのカードエッジ（接点）は金メッキタイプを使用し、ハンダメッキタイプは使用しないでください。本体が正しく動作しないことがあります。

# 1 増設メモリカードの取り付け

増設メモリカードの取り付け方法について説明します。

**!** 注意 ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

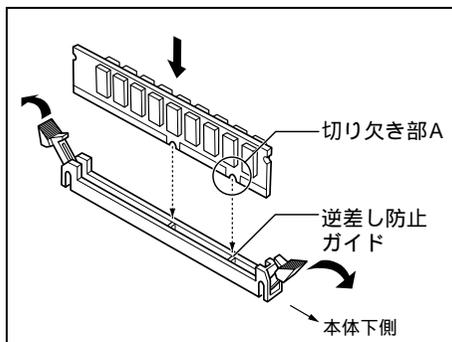
**1** 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

**2** カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

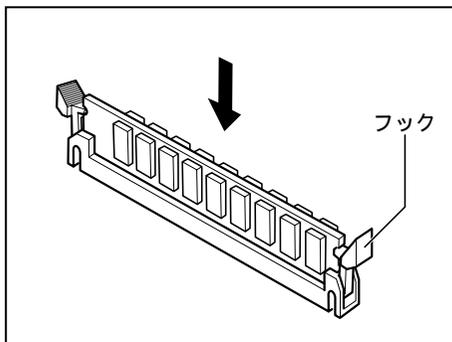
**3** メモリ増設ソケットの左右のフックを広げる

**4** 増設メモリカードの切り欠き部 A を、メモリ増設ソケットの逆差し防止ガイドに合わせる



**!** 注意 ・増設メモリカードの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。

**5** 増設メモリカードを真上から押し込む  
増設メモリカードを手で真上から押し込むと、自動的に両側のフックが立ち上がり、右図のように増設メモリカードが固定されます。



**!** 注意 ・増設メモリカードが完全に挿入されていない状態でフックをすると、異常動作したり、増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。

**6** カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

以上で増設メモリカードの取り付けは完了です。

増設したメモリカードが認識されているか、次の「メモリ増設の確認」で確認してください。

## メモリ増設の確認

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[設定(S)]をポイントし、[コントロールパネル(C)]をダブルクリックする  
[コントロールパネル]画面が表示されます。
- 2 [システム]アイコンをダブルクリックする  
[システムのプロパティ]画面が表示されます。



(注) 画面は Windows 98 の場合です。

- 3 [全般](Windows 95 の場合は [情報]) タブの RAM の数値が合計のメモリ量と合っているか確認する  
次のような場合、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう一度正しく増設メモリカードの取り付けを行なってください。
  - ・電源が入らない
  - ・システムが起動しない
  - ・数値が合っていない

## ② 増設メモリカードの取りはずし

増設メモリカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。



**注意** ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱おうと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

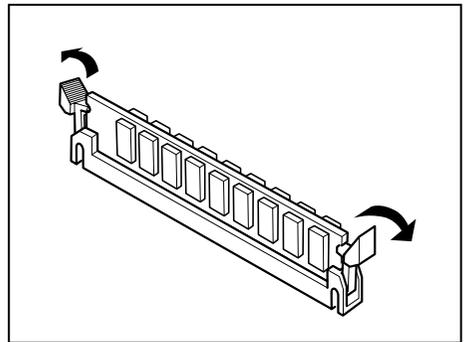
**1** 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

**2** カバーを取りはずす

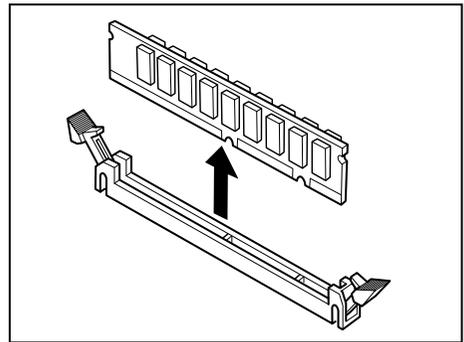
☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

**3** 増設メモリソケットのフックを外側に開く

増設メモリカードが少し出てきます。



**4** 増設メモリカードを真上に引き抜く



**5** カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

## 12 内蔵バッテリーの交換

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約 3 年です。

バッテリーが寿命に達すると、次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行なってください。

System CMOS checksum bad



**注意** ・本装置の内蔵バッテリーには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。

取り扱いを誤りますと、発熱、破裂、発火、中毒、やけどなどの危険があります。

- ・充電、電極除去、分解をしない
- ・100 以上の加熱、焼却をしない
- ・電池は水にぬらさない
- ・子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
- ・電池の内部の液がもれたときは、液にふれない

リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。



お願い

・電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後で設定し直してください。本装置に使用できる内蔵バッテリーはCR2032 リチウム電池です。交換の際は市販のCR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。

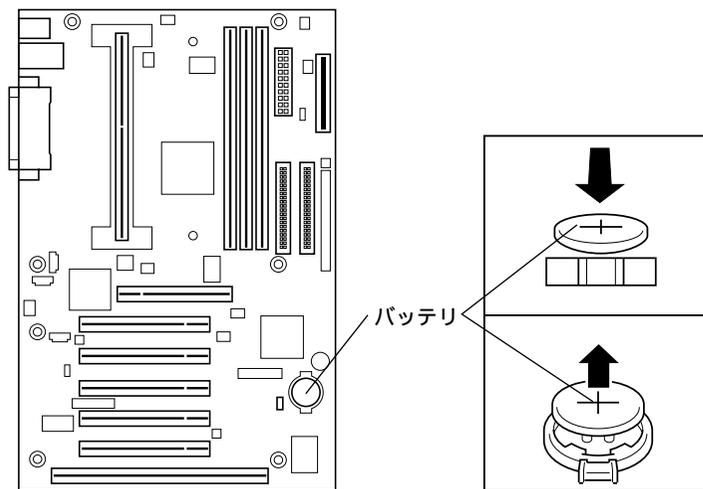
☞「5 章 BIOS セットアップについて」

バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

- 1 「作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 カバーを取りはずす

☞「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」

### 3 バッテリーの位置を確認し、バッテリーの下にマイナスドライバなどを引っかけて下方へ押ししてから、引き上げる



### 4 新しいバッテリーを (+) を上にして取り付ける



お願い

- ・バッテリーの極性 (+, -) をまちがわないように取り付けてください。  
+側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

### 5 カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 カバーの取りはずし、取り付け」



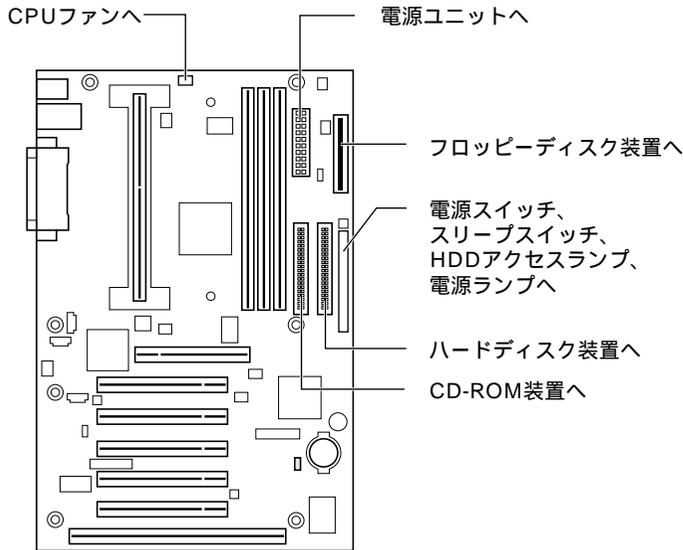
お願い

- ・BIOS セットアップの設定は、既定値の状態になっています。電源 ON 時に BIOS セットアップを起動し、再設定してください。  
☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

# 13 内部ケーブルの接続

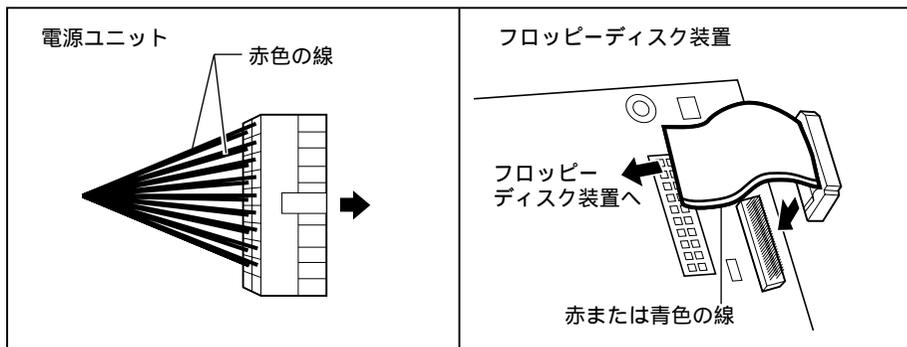
## 1 メインボードのコネクタ接続位置

各機種の主基板のコネクタ接続位置について説明します。  
各コネクタの装置名は、接続先の装置を表します。

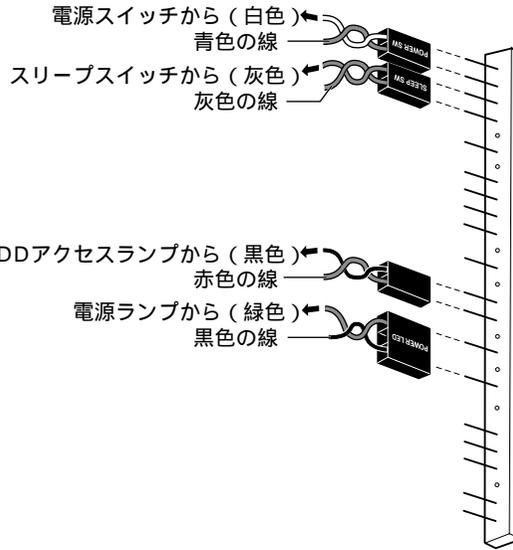


## 2 コネクタへの接続

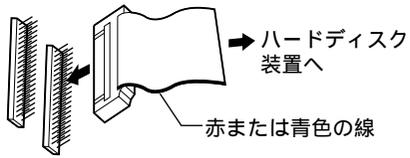
コネクタへの接続方法を説明します。  
接続の際は、コネクタの形状やケーブルの色に注意してください。  
各イラストのタイトルは、接続先の装置を表します。



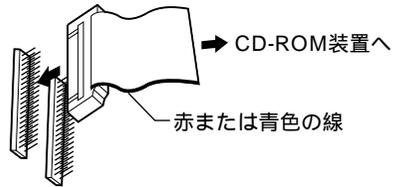
電源スイッチ、スリープスイッチ、HDDアクセスランプ、電源ランプ



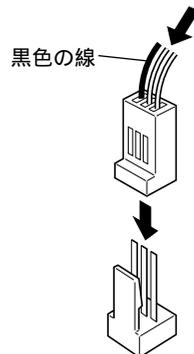
ハードディスク装置



CD-ROM装置



CPUファン



### 3 装置への接続

装置への接続方法を説明します。

接続の際は、コネクタの形状やケーブルの色に注意してください。

各イラスト中の「メインボード\*から」という説明は、「メインボードのコネクタ接続位置」の接続装置名を表します。

